



【どんど焼き】

目次

● 年頭所感	2	● 話題の広場	6
● 在宅緩和ケアの地域連携	3	長野県神城断層地震にDMAT隊を派遣しました	
● 飯田下伊那診療情報連携システム [ism-Link](イズムリンク)	4~5	● ご案内・お知らせ	7
● 冬季の面会について	4~5	分娩料金を改定しました	
● 認定看護師の紹介	6	慢性腎臓病教室をはじめました	
		● 情報カプセル	8
		口腔内崩壊錠とは	
		● 職場紹介	8
		地域医療連携室	

飯田市立病院 基本理念

私たちは、地域の皆さんの健康を支え信頼される医療を実践します

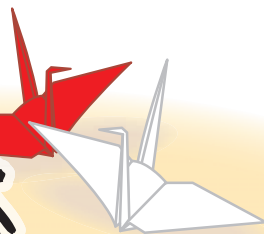
飯田市立病院 基本方針

- 1 私たちは、安全・安心で良質な医療を提供します
- 2 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重し、患者さんの立場に立った医療を実践します
- 3 私たちは、地域の保健、医療、福祉機関と密接に連携します
- 4 私たちは、教育・研修機能を高め、医療水準の向上と、職員が誇りややりがいの持てる職場づくりを行います
- 5 私たちは、公共性と経済性を考慮し、健全な経営に努めます

飯田市立病院 理念行動指針

私たちは、誠意 熱意 創意をもって医療を実践します

年頭所感



飯田市立病院 院長
金子 源 吾

新年明けましておめでとうございます。2015年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、2月のソチ五輪フィギュアスケートで羽生結弦選手が金メダル獲得。浅田真央選手はショートプログラムの失敗の後、フリーでの素晴らしい演技がありました。9月の全米オープンテニスでは錦織圭選手が日本人初の準優勝を果たしました。また、年末には青色LEDの開発で日本人3人がノーベル物理学賞を受賞するなど明るい話題がありました。

一方、医療に関する話題はSTAP細胞の論文問題やエボラ出血熱の世界的感染拡大の問題、8月には約70年ぶりでデング熱の国内感染が確認されるなど、新たな課題が発生しています。

また昨年は、大雪や集中豪雨、地震など自然災害に見舞われました。9月27日には御嶽山の噴火、11月22日には長野県北部神城断層地震が発生し、当院のDMAT(災害医療派遣チーム)も現場へ出動しました。今後とも、災害拠点病院として災害への備えを強化していくことが大切と認識しています。

病院事業に関しては4つの話題がありました。1つ目は第3次整備事業、2つ目は診療報酬改定、3つ目は消費税率の引き上げ、4つ目は日本医療機能評価機構の受審に関するものです。

まず、第3次整備事業は昨年3月に完成し、新しい救命救急センター、周産期センター及びがん診療・緩和ケアセンターが稼働しています。現在行っている外来改修や、今後4西病棟の改修を行っていきませんが、これらの事業により施設整備ができますので、診療の中身の充実に向け、さらに一層の取り組みをしていきたいと決意を新たにしています。

2014年の漢字一文字は「税」であったように昨年4月から消費税が8%になりました。また、診療報酬の改定は消費税分を含んでプラス0.1%でしたが、実質的にはマイナス1.26%となりました。日本全体の医療費が毎年1兆円増加する中、全体としては抑制を図らねばならない状況になっています。

今後「社会保障と税の一体改革」が進められ、「病床の役割分化・連携強化」「地域包括ケアシステムの構築」として、7対1病床の縮小が図られることは必至の状況です。これらの社会情勢を的確にとらえつつ、当院は、地域医療支援病院として、地域内の病院や診療所との連携、在宅医療との連携などを更に進めていくことが重要であると考えています。

昨年11月に病院医療機能評価機構の訪問審査がありました。この受審を契機に業務の見直しを行いました。今後とも見直しと改善を忘れず、更なる医療の質向上を目指して努力したいと考えています。

今後、病院経営環境はますます厳しくなるものと予想され、課題は山積しておりますが、これからの時代の変化を捉えつつ、当院が地域から求められる役割を果たしていくことが重要と考えています。今後とも皆様のご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

2015年が皆様にとりまして、希望に満ちた、素晴らしい年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

在宅緩和ケアの 地域連携



第8回緩和ケア連携協議会

■飯伊緩和ケア連携協議会の活動

飯伊緩和ケア連携協議会は、これまで8回の協議会を開催してきました。様々なテーマで勉強会・講演会・症例検討会などを年1回の緩和ケアセミナーの開催も含め、実施してきました。今後も病院、診療所（歯科含む）、訪問看護、薬局、ケアマネージャー、介護事業所などの他職種が連携協力し、患者さんと家族の思いに寄り添ったケアが実現できるよう、一層の取り組み強化を図ります。



緩和ケアセミナー2014

■ヒューマンネットワークとイズムリンクで在宅ケアの基盤をつくる

患者さんと家族、医療提供者双方が早い段階から関わり、相互理解と信頼関係を深めていきます。カンファレンスでは在宅での目標を共有し、移行後はその実現に向けた地域連携で協力してケアを行います。



iPadでイズムリンクに登録された最新情報を緩和ケアチームが随時チェック

そのような中、在宅緩和ケアがより効率的で質の高いものとなるよう、緩和ケアチームとイズムリンク（飯田下伊那診療情報連携システム）を補助的に組み合わせた新しいケアの検討を始めました。現在、飯田医師会等の協力を得ながら試験運用中ですが、運用に参加している診療所医師や訪問看護師、理学療法士からの報告では、「日々状況が変化する患者さんの情報共有ツールとして非常に有用であり、次を予測したケアが可能となる」という結果が出ています。ヒューマンネットワークの基盤を一層強固にし、イズムリンクを効果的に活用すれば、さらに密度の濃い在宅緩和ケアが提供できるのではと期待を寄せています。

■飯田市立病院緩和ケアチーム

飯田市立病院緩和ケアチームは、がんなどの病気に直面した患者さんとお家族の「からだ」と「こころ」の苦痛を和らげ、できるだけ快適な生活を送れるように支援させていただくチームです。医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、事務、ソーシャルワーカーで構成されており、主治医と協力しながら、診断時期からその人らしく生きられるようサポートします。お困りのことがありましたら、主治医、担当看護師、あるいはがん相談支援センターにご相談ください。

住 所	飯田市八幡町438番地
担当診療科名	緩和ケア内科（麻酔科）
診療日・時間	月・10:00～15:30 水・10:00～12:30 金・10:00～14:00 (完全予約制)
お問い合わせ窓口	がん相談支援センター（医療福祉相談室）
電話番号	代表 0265-21-1255（内線2191）
お問い合わせ時間	月～金・8:30～17:15 ホームページ http://www.imh.jp/

飯田下伊那診療情報連携システム

イズムリンクは安心安全な地域医療

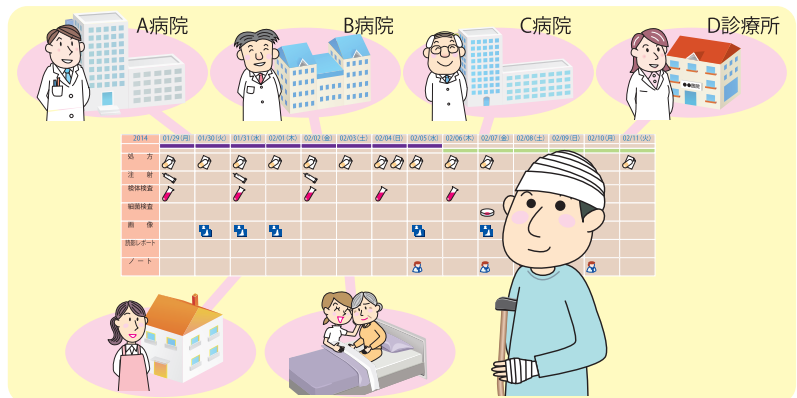
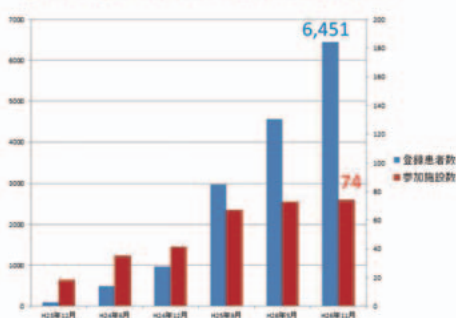
■地域内の医療機関情報をインターネットで結ぶ

イズムリンクは、飯田下伊那の各医療機関の医療情報をインターネットを通じて結ぶ「診療情報連携システム」です。患者さんの同意を得たうえで、受診歴のある複数の医療機関の診療情報をインターネットを通じて一画面に一覧表示して共有することにより、患者さんの日々の診療に役立てることを目的としています。厳しいセキュリティ基準による通信方式を採用しており、安全性もしっかり確保されています。

■サービス開始から3年ー 連携患者登録数は6400以上

サービス開始から3年。飯田下伊那の人口約16.4万人のうち、すでに6,400人以上の地域住民が連携患者として登録済。その数は現在も月200人以上のペースで増加を続けています。2014年11月現在の加盟医療機関数は74。こちらも順調に増え続けています。今後とも地域住民の登録拡大と一層の活用による地域医療の充実に向け、医師会や行政機関と協力連携しながら普及を進めていきます。

[ism-Link]登録患者数・参加施設数の推移



■在宅医療現場で活用が期待される

サービス開始当初は、病院の医療情報（画像、処方、検査、注射等）を病病・病診連携の一環として閲覧するのみでしたが、現在は、診療所を中心とした在宅医療現場での利活用にも大きな期待が寄せられています。複数の診療所では、イズムリンクのより有用な利活用方法を探るべく日々実証実験を行っており、特に医療依存度の高い在宅療養患者さんへのケアに関しては、イズムリンクの優れた情報共有機能（ノート機能）を活用することで、これまでにない迅速かつ質の高い在宅ケアが実現するという結果が出ています。今

面会制限と感染予防の関係

申し訳ありません
ご家族の方以外の面会は
お断りさせていただきます



○号室に入院されている
○さんをお見舞いに
来たのですが…

冬季になると医療機関では、なぜ面会を制限するのでしょうか？

冬期は他の季節と比べ、空気が乾燥しウイルスが浮遊し伝播しやすくなること、人の体温が低下することで免疫を担う働きが低下するため、ウイルスが体内に侵入しやすくなるために感染症が市中で多く発生します。

また、感染をした人はせきやくしゃみ、発熱、おう

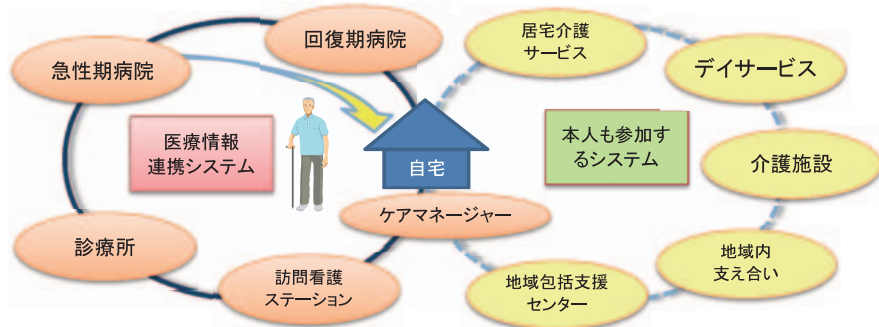
ム [ism-Link] (イズムリンク)

を実現する「結い」のネットワーク

後は、こうした実証実験を繰り返しながら、在宅医療現場での利活用を活性化させ、より密度の高い地域医療の実現を目指していきます。

■住み慣れた地域で安心安全に暮らすための社会的インフラ

地域内で安心安全な医療を受けていくためには、こうしたサービスを積極的に活用しながら、医療提供者と患者さん双方が理解と協力を深め、信頼関係を築き上げていくことが大切です。地域内のどの医療機関にかかっても、基本的な診療情報が共有されていれば、薬の重複投与や重複検査の予防に繋がり、他院の検査データや診察結果等の情報を参考に、総合的に診療してもらえるため、質が高く、より効率的で費用負担の少ない「安心安全な医療」を受けられます。さらに今後は、市町村が計画の主体となり準備が進められる「地域包括ケアシステム」との連携についても、イズムリンクが医療情報と介護情報を橋渡しするプラットフォームとなることが想定されます。私たちが住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らしていくための社会的インフラとして、イズムリンクは益々大きな役割を担っていくことになります。



・住み慣れた地域で暮らしていけるよう、それを支えるシステムも今後検討

■イズムリンク利用者登録には同意書への署名が必要です

利用者登録には「同意書」への署名が必要です。詳しくは、イズムリンク事務局（飯田市立病院地域医療連携係）電話0265-21-1255（内線2237）までお問い合わせください。

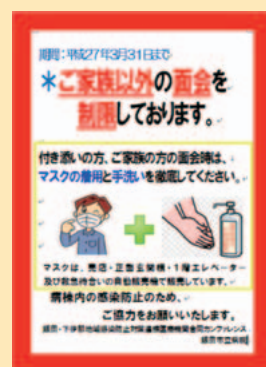
吐や下痢のような症状が現れ感染を広げますが、中には症状がなくとも（不顕性感染：ふけんせいかんせん）人に感染させる感染源となる人も多くなり感染を広めます。

そして、多くの人が集まる場所や、多くの人との接触の機会が感染リスクを高めます。

病院で入院をされている患者さんの多くは、高齢者や小児、病気や治療により抵抗力の低下した方々で、感染すると重症化してしまう恐れがあります。

このような患者さんを感染から守る対策として、感染症流行期（時）には家族以外のの方の面会をお断りさせていただいています。

皆様のご理解とご協力をお願い致します。



認定看護師の紹介

その5

認定看護師とは、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる看護師のことです。患者さんの療養生活の向上と疾病を抱えながらも在宅でその人らしい生活が送れるために、専門的知識をもつ認定看護師を中心とし、フットケア、ストーマ管理、褥瘡予防、リンパ浮腫ケア、緩和ケア等を行っています。当院の認定看護師を紹介します。

手術看護認定看護師

手術を中心とした一連の期間を、「周術期」と言います。周術期は「術前」、「術中」、「術後」に分けられますが、手術看護認定看護師はこの周術期全体を通して、患者さんが安全に手術を受けられるよう医療チームと連携しながらサポートしていきます。また、この周術期には麻酔というものが深く関わっていますが、術前から行われる手術に対する準備、手術中の全身管理、術後の痛みのコントロールなどは麻酔科医師が中心となって行っています。こうした全身麻酔をはじめとした麻酔に精通し、麻酔科医師をサポートすること、手術全体の状況、患者様の個別的リスクなどを把握した上で様々な調整を行うことなど、手術室内外を問わず役割発揮できることなど、麻酔、手術の安全性向上に貢献できることを目標として活動しています。



乳がん看護認定看護師

乳がん看護認定看護師は、乳がん領域における医療の高度専門化、乳がん患者の増加といった背景から、多職種と連携し乳がん患者さんや家族へのサポートを行う役割を担っています。乳がん患者さんは、家庭内での役割だけでなく社会的にも活躍されている方が多く、治療方法も多彩であるため、治療に対する葛藤や、自己決定することに困難を感じることも多いと言われています。患者さんとのコミュニケーションを大切にし、その人に合った情報提供を行い、『その人らしい』生活が送れるような支援を心掛けています。現在女性病棟で勤務していますが、10月より週1日程度乳腺外科外来も兼務しています。何かありましたら、気軽にお声掛けください。



長野県神城断層地震にDMAT隊を派遣しました 11/22

御嶽山の噴火災害に続き、11月22日(土)22時8分頃、北安曇郡白馬村を震源として発生したマグニチュード6.7の地震が発生しました。飯田市立病院DMATも出動しましたので報告いたします。先日の噴火に続いてのため県側の対応も早く、23時11分には各隊員に第一報のメールが入り、23時46分には参集指示が入りました。DMAT派遣及び緊急消防援助隊派遣に際して県災害対策本部で阿部守一知事は「人命優先で連絡を密に対応してほしい。空振りを恐れず、最大限対応してほしい」と発言されたそうです。今回出動してみて、被害場所、避難場所等に各地域の消防団の皆さんを見かける機会が多かったと感じました。後で聞いた話ですが、家屋倒壊直後に瓦礫の下から一人暮らしの老人を救出したのは地元消防団であったそうですし、救護所で聞く話も地元ならではの的確な情報でした。改めて地元に着目した組織の重要性を感じました。DMATとは、「災害急性期に活動できる機動性を持つ、トレーニングを受けた医療チーム」です。



避難所での活動

お知らせ

平成27年1月からの分娩料金を改定しました

平成27年1月の分娩より、産科医療補償制度の掛金が1分娩あたり30,000円から16,000円に引き下げられました。

この掛金は当院の分娩料・介助料の中に含まれているため、掛金引き下げに合わせ分娩料・介助料を下表のとおり改定いたしました。

区 分			改定前	改定後（平成27年1月～）
分 娩 料	単 胎	平 日	210,000円	196,000円
		時 間 外	233,000円	219,000円
		休日又は深夜	255,000円	241,000円
	双 胎	平 日	331,000円	303,000円
		時 間 外	365,000円	337,000円
		休日又は深夜	399,000円	371,000円
帝王切開時 分娩介助料	単 胎		159,000円	145,000円
	双 胎		215,000円	187,000円

※3胎以上の料金についてはお問い合わせください。

産科医療補償制度とは

分娩に関連して発症した重度脳性まひのお子さまとご家族の経済的負担を速やかに補償するとともに、原因分析を行い、同じような事例の再発防止に資する情報を提供することなどにより、紛争の防止・早期解決および産科医療の質の向上を図ることを目的として創設された制度です。

（厚生労働省ホームページより）

お知らせ

慢性腎臓病教室をはじめました

腎臓内科外来、内分泌内科外来などに通院されている患者さんや、腎臓が気になり始めた方を対象に、慢性腎臓病教室をはじめました。第1回目を11月、第2回目を12月に開催し、両日とも20名を超える方の参加がありました。自分の腎臓の事についてもっと知りたいという感想があり、次の教室開催に期待を寄せていただきました。

外来受診時に、看護師により腎臓病について話をさせていただいていますが、お話しできる時間には限りがあるため詳しい話ができません。ですが腎臓病教室では、腎臓内科医師から、腎臓のしくみやはたらき、慢性腎臓病について、検査データの見方、腎臓を守るために行うことなどを、詳しく聴くことができます。腎臓病を悪くしないためにできることを、患者さん、ご家族と一緒に考えていきます。慢性腎臓病教室に、是非、お気軽に御参加ください。



お問い合わせ：腎センター ☎0265-21-1255 内線2286・2287



OD錠(口腔内崩壊錠)とは

最近、薬の名前の末尾にOD錠と書かれた薬を見かけることはありませんか？

OD(Orally Disintegration)錠とは、「口腔内崩壊錠」の略語です。唾液や少量の水ですぐに口の中で溶けるので、小児や高齢者、薬を飲み込む力が弱い人でも服用しやすくなっています。

では、この口腔内崩壊錠には、どのような特徴があるのでしょうか？

OD錠のメリット

- 水分を必要としないので、外出先でも場所を選ばず服用できる
- 薬を飲み込むことが難しい方に向いている
- 透析を受けているなど水分の摂取制限のある方に向いている

OD錠のデメリット

- 普通の錠剤と比べて湿気に弱く、壊れやすい
- 他の薬と一緒に服用する場合、味が混ざって不快に感じる
- OD錠になっている薬の種類が少ない



水を必要としないOD錠ですが、OD錠以外の薬と同時に服用するときには、水で服用する必要があります。また、寝たままの状態では水なしで飲ませないことになっているため、寝たきりの患者さんには注意が必要です。

シリーズ ● 職場紹介 ● その43

【地域医療連携係(地域医療総合連携室)の紹介】

地域医療連携係は、「地域医療総合連携室」内にあり、係長1名、事務職員7名の計8名のスタッフで組織されています。

主な業務は①紹介患者さんの予約調整業務、②地域医療支援病院の運営に関する業務、③医療情報の共有化に関する業務で、地域医療連携を円滑にするための全般的な仕事をしています。

特に最近、地域完結型医療を実現するため、かかりつけ医制度の確立に向けた「患者さんの紹介・逆紹介の推進」に力を入れています。これからの医療は、それぞれの医療機関が持つ機能と特性を生かしながら役割分担し、介護分野

とも連携しながら地域全体で支える医療へと進んでいきます。地域住民が、住み慣れた場所で安心安全な医療を受けられるように、職員一丸となって業務に取り組んでいます。



あ と が き

外来待合室で自分の名前を呼んで欲しくないと思う方が増えています。そんな申し出があるとスタッフは配慮して対応していますが、声を出さずに悲しい思いをされている方も多いと思います。

“待合室に設置されたモニターに自分の番号が表示されて、順番待ちも分かる…” 今年はそのような外来にしたいです。

編集委員 羽生憲直

—— 外来改修のお知らせ ——

市立病院では外来の診療環境を改善するため、一部の診療科で改修工事を行っています。

これまでに、皮膚科の光線治療室が整備されたほか、第3次整備事業で移転した産婦人科外来跡へ泌尿器科が移りました。泌尿器科は、これまでベッド移動の患者さんの対応が難しい状況でしたが、この移設により改善されたほか診療機能全体が向上しました。

また、泌尿器科が移転した後には形成外科を移設させ、そこに日帰り手術ができる小手術室を併設します。

このほか、内科や外科などで診察室の増設等を予定しており、順次改修してまいります。

これらの工事で患者さんはじめ関係の皆様にご不便・ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどお願いいたします。